

## 日越ソフトウェアビジネスセミナー開催報告

平成 25 年 5 月 7 日、ベトナムソフトウェア産業協会 (VINASA) 訪日ミッション (15 社、30 名) を迎え、JISA-VINASA 共催の日越ソフトウェアビジネスセミナーが、日東紡ビル 4F の TKP 会議室で開催された。日本側参加者は 72 名で、ベトナム側とあわせ合計 102 名が参加した。

まず JISA 河野副会長・専務理事の開会挨拶、続いて VINASA の日越協力委員会 (VJC) の Luon 副委員長 (Luvina 社・会長) が訪日ミッションを代表して挨拶を行った。

次に VINASA の Giang 理事より、ベトナムソフトウェア産業の概況について発表があった。発表によれば、ベトナム IT 産業は 2011 年時点で、136 億ドル、大半がハードウェア産業でありソフトウェア産業規模はハードウェアの約 1 割で 11.7 億ドル、コンテンツ産業もほぼ同規模とのこと。ソフトウェア産業は、2008 年～2010 年までは 25% の成長だったが、2010～2011 年にかけては 10% の成長にとどまった。

しかし、中国との関係が停滞していることにより、China+1 の一番手として、日本からの投資が増えており、ソフトウェア産業の間でも日越協力を強化するために、Japan ICT Day を毎年開催する等努力しているとのことだった。特に今年は日越友好協力 40 周年の年でもあり、力を入れている。

続いて、NEC ソフト・奥田祥子、FPT ジャパン・Vong、Luvina・Luong の各氏により事例紹介が行われ、続いて Rikkei Soft CEO の Tung 氏を加えた 4 氏で、より一層日越間のソフトウェアビジネスを拡大するために必要なことについて日本語での討議と質疑応答を行った。まずは日本語のできる人材の育成、それ以上に日本のビジネス知識 (業種知識) について理解を深めることが重要との指摘があった。

最後に、ベトナム側参加企業による会社 PR がそれぞれ行われ、セミナー終了後には名刺交換のためのネットワーキングレセプションを行った。

今回、ベトナム側デレゲーションに参加していた企業は、2 社を除き日本語でプレゼンテーションを行い、日本ビジネスへの対応力は数年前と比較するとだいぶ上がってきていると感じられた。